

JT における健康経営の取り組み

全国 11 カ所のエリアに従業員の健康支援を専門に行う産業保健スタッフ（医師・保健師 約 50 名）を配置している強みを最大限に活かし、一人ひとりに対して、産業保健スタッフが個別に面談して、健康診断結果のフィードバックや個々人のライフスタイルに合わせた睡眠や食事、運動等の生活習慣に関するアドバイスを行っている他、地域特性等も踏まえた健康講話会や啓発イベントを事業所ごとに定期的を開催する等、きめ細かい健康支援を実施しています。

さらに、従業員が自身や家族の健康状態に応じて、自ら選択した検査や予防接種等の費用補助を行う「健康支援費用補助制度」を導入しており、一人ひとりが主体的に健康増進に取り組むための支援体制も充実しています。なお、本制度は、海外の医療機関における受診等も補助対象としているため、一部の海外勤務者および家族も利用できるものになっています。



社内外との協業

他企業とタイアップし、従業員が楽しみながら体験できる JT 健康づくりプログラム（運動・食事・睡眠等、約 130 テーマ）を用意し、これらの中から、各職場のニーズや課題感に応じたメニューを実施しています。多様な働き方に合わせ、「オフィスでの対面形式」と「オンライン形式」のいずれの方法でも開催可能になっています。

また、ジェイティ健康保険組合とのコラボヘルスとして、健康ポータルサイト「Pep Up」を活用したウォーキングラリーを開催しています。

ウォーキングラリー<健康×職場活性化×社会貢献～一石三鳥～>

JT では、2010 年から「TABLE FOR TWO（以下、TFT という）」プログラムに参加しています。これは JT 本
社社員食堂で従業員が TFT メニューを 1 食購入するたびに、開発途上国に給食 1 食分の金額を会社が寄
付するという取り組みで始まりました。

2020 年からは、TFT と連携し、健康ポータルサイト Pep Up を活用した全社イベント「ウォーキングラリー」を実
施しています。この取り組みは、運動習慣のきっかけづくりだけでなく、職場の活性化、社会貢献活動も兼ねたユ
ニークな取り組みとなっています。2025 年は 5 月と 10 月の 2 回開催し、全国で 7,115 名の JT グループ従
業員が参加しました。1 人の従業員が 1 日 8,000 歩を達成することにより開発途上国の子どもたちへ給食 1 食
分を寄付することとしており、2025 年度の寄付総額は 2,262,360 円となりました。

従業員のボランティア活動を含むコミュニティインベストメントに関する取り組みについては、[こちら](#)からご覧ください。



©TABLE FOR TWO

メンタルヘルスへの取り組み

JT では、ストレス等の状況を従業員自ら把握できる機会の提供や組織単位での分析結果に基づく職場環境
改善の取り組み、専門医やカウンセラーによる社内外相談窓口の設置、セルフケア・ラインケア等の各種セミナー
の実施等、さまざまな方法でメンタル疾患の予防に努めています。

なお、JTI においても、心理社会的リスク等のリスクアセスメント対象項目への追加や心の状態を診断するツール
の活用、社内で初期対応ができる相談員である Mental Health First Aiders の育成、マネジメントと部下
の有意義なコミュニケーションの促進といったさまざまな取り組みを、グローバルベースで進めています。

多様な働き方を支える取り組み

多様な働き方を選択・実現できる仕組みとして、テレワーク制度、コアタイムのないフレックスタイム制度、育児・
介護のための制度が充実しています。

また、労働時間は社員の心身の健康に大きな影響を及ぼすことから、上司と部下のコミュニケーションを基本とし
たうえで、パソコンでのログオン・ログオフ時刻を上司が確認しつつ勤怠管理を行えるシステムを導入する等、適正

な労働時間の把握・管理に取り組んでいます。加えて、労使で時短推進検討委員会を設置し、社員が心身ともに リフレッシュできるよう、時間外労働の削減や年休取得の促進に積極的に取り組んでいます。

これらの取り組みにより、近年の所定外労働時間は 1 カ月平均 20 時間前後で推移しており、生産性の向上にも寄与しています。

詳細については、[こちら](#)（働きやすい環境の整備）をご覧ください。